

提出 平成 19 年 12 月 28 日

会合議事録

研究会名：X 線マイクロ・ナノトモグラフィー研究会

開催日時：平成 19 年 12 月 26 日（水）13：00～21：00

開催場所：かんぼの宿岐阜羽島会議室（岐阜県羽島市桑原町午南 1041）

出席者：井上（カネボウ）、上杉（JASRI）、上梶（阪大）、越谷（京セラ）、小林（豊橋技科大）、佐山（富山工技センター）、世良（理研）、高木（新日鐵テクノ）、竹内（JASRI）、大東（JASRI）、土山（阪大）、戸田（豊橋技科大）、柳楽（阪大、安田代理）、人見（大林組）、松本（阪大）、山原（田辺三菱製薬）

計 16 名

内容

◎講演

13：00～13：45 「MicroCT 法によるコンクリート微細構造の観察」

大林組 人見 尚

13：45～14：30 「固形医薬品製剤の粒子設計と X 線 CT を利用した造粒物の評価」

田辺三菱製薬 山原 弘

14：45～15：30 「スプリング 8 での CT 撮影データの再構成、及び画像解析について」

大阪大学 上梶真之

15：30～16：15 「高分解能 X 線 CT 画像の処理・解析およびその応用」

豊橋技術科学大 小林正和

16：30～16：45 「ボクセルサイズについての補足説明」

大阪大学 土山 明

◎運営に関する議事

16：45～18：00

(1)議題 1 （内容非公開）

(2)報告事項

- 新入会員：高木康夫氏（曙ブレーキ，現：新日鐵テクノリサーチ）
- まてりあ 12月号に、本研究会から 10 件程度の報告が掲載された。
- Oxford University Press の「Advanced Tomographic Methods in Materials Research and Engineering」が出版された。戸田および鈴木が執筆に加わっている。
- 2008 年 1 月 31 日に BL19B2 で研修会が開催される。
- 「マイクロ・ナノイメージングと生体機能研究会」から、連携の申し出があった。共同で研究会の開催も可能であり、代表戸田および副代表上杉が、今後先方と詳細を検討していく。
- 利用懇談会評議員候補については、本研究会から推薦はしない。

(3)第一期の活動に対する評価および第二期の活動について

○会長として、豊橋技科大戸田が第一期の活動に対する自己評価を行った。設置申請書で記述した項目の中で、「1. 研究成果の情報交換」、「2. 試料準備、撮影技法などの情報交換、相互提供、共同開発」、「6. 施設側の可視化技法開発状況、施設の維持改良情報入手、共有」、については、非常に良好な評価であった。

○参加者の主な意見は次のとおり。

- ・「10. ビームラインの高度化などへの貢献」については、会員のニーズに応じて積極的に対応しているので、高い評価を行うべきである（上杉）。
- ・SPring-8 を初めて利用する企業ユーザにとっては、研究会で得られる情報は非常に役に立つ（山原）。
- ・異なる技術分野の研究者の接点になっており、有意義である。しかし、SPring-8 の中で研究会を持つことの意義について意識しながら運営する必要がある（戸田）。
- ・「7. 施設側の開発等に必要試料の提供、幹旋や実証試験の分担」、「10. ビームラインの高度化などへの貢献」など、今後さらに意識して運営する必要がある（戸田）。
- ・研究会全体として方向性を明確にし、SPring-8 に要望を出す必要がある（竹内）。
- ・企業の会員に対して、大学の研究者のアプローチは役に立っている。もっと大学側からの会員を増やすべきである（土山）。
- ・研究会で報告される先進的なアプローチは、企業にとって非常に参考になる（井上）。
- ・マイクロ CT のための、ソフトおよびハードの開発に繋がることを期待する（井上）。
- ・Slice については、会員のニーズに対して可能なものはソフトを公開している。

今後はバグフィックスが中心となる（上相）。

・Slice についての質問などは、メーリングリストで情報を共有すべきである（戸田）。

・Slice についての講習会は、研究会の枠を超えており、不可能である（上杉、上相）。

○基本的に第二期も研究会を申請する方向で、参加者が了解をした。

(4)次回の研究会

・時期：3月のビーム停止期間を予定

・筑波大武田氏、産総研中野氏など、講演が未だの方を中心に調整

◎交流討論会

18：00～21：00

○情報交換、意見交換を行った。

以上